「爪痕」各地に深く

大雨の特別警報が出され記録的豪雨となった宮城県では11日、栗原市で1人が死亡、1人が行方不明となったほか、大崎市で川の堤防が決壊して住宅街が浸水し、住民が警察や消防、自衛隊に救助された。10日夜から11日朝にかけ、川の氾濫や土砂災害の危険性が高まったとして、仙台市は延べ約41万2千人に一時避難勧告を出した。県内各地で避難指示や避難勧告が出され、床上、床下浸水の被害があった。

栗原で1人死亡、1人不明

宮城県栗原市では11日午前、川から水があふれて車が流され、乗っていた同市の団体職員、高橋ひとみさん(48)が死亡。男性(62)が行方不明となっている。大和町では吉田川があふれ、一時、住民が孤立した。

仙台市は中心部を流れる広瀬川で氾濫の恐れがあるとして、11日午前0時半に愛宕大橋の下流域に避難勧告が発令されたほか、青葉区や太白区などの一部地域で、延べ約19万1千世帯、約41万2千人に避難勧告が出され、過去最多となった。

東北各地でも、避難指示や避難勧告が出され、住宅被害などがあった。

福島県では、南相馬市で避難指示、いわき市で避難勧告が発令された。住宅の全壊が1棟、一部損壊が伊達市などで3棟のほか、床上、床下浸水の被害があった。秋田県では、湯沢市や大仙市の一部地域に避難勧告が出された。

山形県では、最上町で床上、同町などで床下浸水の被害。同町の一部地域に避難指示、それ以外の全域に避難勧告。山形市、尾花沢市、東根市、米沢市の一部地域に避難勧告などが出された。岩手県では、大槌町の小槌仮設住宅と奥州市衣川区でそれぞれ1棟が床下浸水した。

JR東日本仙台支社(午後6時半現在)によると、仙山線と陸羽東線は全線で、仙石線、只見線は一部区間で運転を見合わせた。石巻線と気仙沼線は夕方まで、東北線は一部区間で夜まで運転を見合わせた。山形新幹線、奥羽線、磐越東線、常磐線は運転を再開した。

ボートで救助活動をする消防隊員。左の集合住宅2階に人の姿が見える＝11日、宮城県大崎市(大渡美咲撮影)

大崎市が用意した食事を取る住民ら。大崎市民病院の医師(右奥)が、住民の健康状態を確認していた＝11日、宮城県大崎市の市立古川第五小学校体育館　(岡田美月撮影)

「備蓄した食料も水没」大崎

〈宮城〉堤防が決壊した大崎市古川西荒井の渋井川周辺の住民らはボートやヘリで救出され、避難所などで不安な一日を過ごした。

市防災安全課によると、最大で727人が同地区の小学校など19カ所に避難した。市は午後3時以降、当日中に自宅などに帰れず泊まりが必要な人に対し、同校体育館に集まるよう呼びかけた。

古川第五小学校の体育館には、午前4時40分ごろから住民らが避難してきた。最大で約150人の住民が避難し、マットの上で、配られた毛布を掛けて横になったり、座り込んで市が準備したご飯を食べたりするなど一様に疲れた表情を浮かべた。

「やっと元どおりに戻ったと思ったら、また災害に見舞われた。本当にショック」。主婦の相沢美枝子さん(77)は、東日本大震災の揺れで自宅が一部損壊しながらも修繕して住み続けていたという。「震災の経験から水や食料などを1階にまとめて置いていたのに、今回の水害では1階は浸水して全く役に立たなかった」と肩を落とした。

3094人、学校などに避難　仙台

〈宮城〉七北田川が氾濫した仙台市泉区をはじめ、青葉区、宮城野区、若林区、太白区の市全域では11日、住民らが市内の小中学校などに身を寄せた。

市災害対策本部によると、午前10時現在で、3094人が市内142カ所に避難した。

市立市名坂小学校の2階教室などには、午前3時過ぎから住民らが避難してきた。約40人が集まり、毛布を敷いて座り込みながら、学校が配ったクラッカーや水などを取り、不安な表情を浮かべた。

同校の狩野孝彦校長(59)は「住民の皆さんは広報車の呼びかけを聞くなどして避難してきた。転勤族が多い地域柄、被害状況が分からず不安で来たという人もいた」と話した。